



# 津消防タイムズ

第57号

発行 津市消防本部  
〒514-1101  
津市久居明神町  
2276 番地

編集 消防総務課  
企画調整担当  
TEL 059-254-0353  
FAX 059-256-7755

火災の問い合わせ  
☎059-224-1881

三重県救急医療情報センター  
コールセンター  
☎059-256-1199

津市救急・健康相談  
ダイヤル 24  
☎0120-840-299

## 河芸町で開催

平成二十七年十一月二十二日、河芸町浜田の河芸第二グラウンドで、津市総合防災訓練が行われました。

近年、発生が懸念される南海トラフを震源域とする大規模地震に備え、実践的な訓練を実施し、市民の防災意識の高揚と、災害対応技術の向上や、防災関係機関相互の協力・連携体制の強化を図り、災害時の被害を軽減することを目的としています。

訓練は、津市をはじめ関係機関による、災害対策本部の設置・運営、応急救護所の設置・運営、多重事故・倒壊家屋現場での救助訓練が実施され、災害に対する連携等について確認しました。

また今回は、市内で一番の生徒数を誇る朝陽中学校の生徒約六百人も参加し、学校から訓

→朝陽中学校の生徒  
600人が避難



←バケツリレーで  
消火活動

練会場まで避難訓練を実施するとともに、助ける側、助けられる側の両方の立場で訓練に参加しました。

訓練途中に「ゴゴゴゴ」という音とともに余震が発生した際は、参加者全員が身を屈めるなどして身を守ったりと、実災害さながらの雰囲気の中で行われました。

訓練の参加者たちは、終始熱心な表情で取り組んでいました。  
(前川 寿宏)

**防災航空隊との合同訓練****(白山消防署)**

平成二十七年十月十一日、美杉町八手俣の君ヶ野ダムにある水神公園で、林野火災を想定し白山消防署、消防団白山方面団・美杉方面団及び三重県防災航空隊との合同訓練を実施しました。

大規模な山林火災のため、ヘリによる上空からの散水が必要であるとの想定で三重県防災航空隊の防災ヘリを要請し、現場に到着したヘリの下部に取り付けられた消火バケツへの給水するため、消防団が連携してダム湖から送水を実施しました。

初めて三重県航空隊との合同訓練を実施した消防団員は、「非常に貴重な経験ができ、有意義な訓練でした」と感想を述べていました。

山間部における災害対応では、三重県防災航空隊と消防署・消防団が連携した活動が考えられることから、今後も、より一層連携強化に努めていきます。

**(前川 敦史)**

↑ 消防団が送水し消火バケツに給水

**操法大会に向けて****(一志分署)**

津市消防団一志方面団は、平成二十八年七月に鈴鹿市の三重県消防学校で行われる三重県消防操法大会の小型ポンプ操法の部に向けて、現在厳しい訓練を行っています。

小型ポンプ操法では、補助者を含めた五人が連携して、ホース延長や小型消防ポンプの操作の正確さを競うもので、日頃の訓練の成果を披露することとしています。



↑ 寒空の下、大会に向けて訓練を重ねています。

一志方面団では、平成二十七年十二月から訓練を始めており、冬の寒空の下、一志西小学校グラウンドで、選手・指導者となった団員や消防職員が、一丸となって訓練に取り組んでいます。

十二月と一月は、訓練礼式や基礎体力づくりを中心に訓練に励んでいます。

訓練礼式では、規律正しい消防の基本動作を身につけ、基礎を作ることを目的とし、基礎体力づくりは、短距離走、長距離走、筋力トレーニングを行い、厳しい訓練に耐えられる身体づくりを行います。

指導する団員・消防職員も、選手たちに負けないくらい大

きな声を出し、指導にも熱が入ります。訓練は、これから本大会に向けより厳しいものになっていきます。私たち指導する消防職員も全力でサポートしていきます。

**(前田 悠輔)****香良洲方面団表彰伝達式****(香良洲分遣所)**

一月十日、サンデルタ香良洲において、新しい年の初めに津市消防団香良洲方面団表彰伝達式が実施されました。

表彰伝達式は、消防団の職務に永年精励された団員の方や団員の支えとなってこられた家族の方に深く敬意を表し表彰されるものです。

表彰が伝達された団員には大きな拍手が送られていました。

**(奥田 仁)**

↑ 方面団長から表彰を伝達

## 備えあれば憂いなし

(中消防署)

今回は、消防署の朝の恒例業務を皆さんに紹介させていた  
だきます。

皆さん、朝の九時頃に消防署の前を通ったことはありませんか？全ての消防署で、災害が無い限り消防車のエンジンがかかり、サイレンを鳴らし、ライトを点灯させています。

これは何をしているのか？それは・・・全ての車両と積載物の点検を実施しています。それも毎日、お盆やお正月も欠かさずに。



↑サイレンを鳴らし、ライトを点灯



↑ポンプの点検

なぜ毎日の点検を実施するのか？それは火事や救急、救助の災害が発生した際に、車両や資機材が正常に動かなければ人命活動に直結するからです。そのため、私達は、毎朝勤務を開始すると共に点検を行い、正常に動くことを確認し、あらゆる災害に対応できるように備えているのです。

毎朝の点検は、休日も実施しているため、消防署のご近所にお住まいの方にはご迷惑をおかけしているかもしれません。しかし、毎日、あらゆる災害に対応し、市民の皆様の命を守るために必要不可欠な業務のため、皆様のご理解を宜しくお願いいたします。

(森 良典)

## 滝の効用？

(久居消防署)

日本には日本三大瀑布といわれる滝があるそうです。

華厳の滝（栃木県）、那智の滝（和歌山県）、袋田の滝（茨城県）がそうです。私は勉強不足で知りませんでした。みなさんの中に知っている方も見えるのではないのでしょうか。

近年、滝には飛沫浴の癒し効果が言われているそうです。

滝の周辺には落下して飛び散る飛沫によりマイナスイオンに帯電した空気イオンがたちこめ、そのマイナスイオン化した微粒子を浴びると、喘息、ストレス、不眠症などに有効で、水量が豊かで落差が大きい滝ほど、その効果が高いとのこととです。

わが津市消防にも滝があることを御存知でしょうか。

その名も消防ホースの滝といえます。



↑ホースの滝

この滝は、火災発生時に消防ホースがきちんと使用出来るかどうかホースに水を通して、ホースに破損等がないか確認した後干しているものです。日本三大瀑布ほどのマイナスイオンは出ませんので、癒し効果は期待できませんが、火災発生時には効果的な消防活動が行えるよう常に万全を期しており、みなさんの暮らしを守る滝です。

(増田 裕彦)

**救急車の走行について****(西分署)**

みなさん、救急車が赤色灯を回転させ、サイレンを鳴らしているのに、なぜこんなに遅いの？と思われた方はいませんか？

私たち救急隊員は、傷病者の搬送を適切に行うことを任務として活動していますが、傷病者を救急車で病院まで搬送する際、次のようなことに注意しながら走行しています。

救急車はどんな傷病者に対しても、ただ、急いで搬送しているわけではありません。もちろん、早急な搬送は原則でありませんが、気分不良の方、脳出血を起こしているおそれのある方、救急救命士が傷病者に対して穿刺（点滴などで針を刺す行為）している時、骨折の疑いで体動させると痛みを訴える方など、その時々で傷病者の状態を考慮し、悪化させずに病院へ搬送するためにも、交差点やカーブ等でもスムーズな加減速が必要になります。



↑ 緊急走行する救急車

また、道路渋滞や道路状況（道路幅員や路面段差）等により病院までのルートを決定しています。

こういう理由から、緊急走行している救急車が遅い場合がありますので、ご理解と御協力をお願いします。（山本 直紀）

**高規格救急車更新****(安濃分署)**

平成十七年に安濃分署（当時は安濃分遣所）開設と同時に配備された高規格救急車は、今年走行距離十七万キロメートルを超え、また車体の老朽化が進んだため、第一線を退くこととなりました。

雨の日も雪の日も、救急隊員と傷病者を乗せて、走り続けましたが、今後は、予備車として第二の業務に就く予定です。



↑ 第2の業務に就きます

替わって配備されるのが、最新鋭の高規格救急車。少しでも傷病者の負担を軽減できるように防振ベッドが備わっていたり、手当のために使う多くの資器材が使いやすいように改善されていたりしています。今後も、市民の安全・安心を守るべく安濃分署の救急車は走り続けます。（高橋 直通）

**鉄道会社と合同訓練****(北消防署)**

平成二十七年十月九日、近鉄白塚駅構内車庫線で、列車事故対応訓練が実施されました。訓練には、近畿日本鉄道、津警察署、中消防署、北消防署など約二百名が参加しました。

訓練は、運転中の二両編成の列車と踏切に進入してきた乗用車との衝突事故で、乗客が多数負傷し、乗用車の運転手が挟まれていたとの想定で実施されました。

いつ起こるか分からない多数傷病者事故の対応に各関係機関の連携を図ることができました。（大市 昌広）



↑ 鉄道事故での対応を確認

## 消防画伯

(美里分署)

平成二十七年十二月二日、津市立榊原幼稚園の防火指導にお邪魔しました。

園児たちは、火災を想定した避難訓練を実施したあと、消防車を題材に写生を行いました。その際に、幼稚園の先生の奨めで消防職員も写生大会に飛び入り参加することとなりました。

園児たちは大喜び。職員としても何十年ぶり？の写生を通じて園児と触れ合うことで、訓練がより印象深いものに名なつたと思います。



↑消防職員も写生に参加。出来ばえは・・・？

園児との触れ合いの中で、「将来消防士になりたい。」という子どもも多く、改めて自分たちの仕事の重みを認識させられ、身の引き締まる思いでした。

今回の訓練のように、単なる指導だけでなく、市民との触れ合いを持つことが、訓練の印象を深め、効果的な防火啓発につながるように感じました。

なお、職員が描いた消防車の絵のできについては・・・。

(田子 元規)

## 山岳救助に備えて

(芸濃分署)

山岳救助に備え、芸濃分署職員が、休みの日に有志が集まり、登山道と携帯電話の電波状況調査のため、経ヶ峰に登りました。

今回は、携帯電話の電波状況の良いポイントで実際に一一九番の訓練通報を実施したところ、管轄である津市消防だけでなく、管轄外の近隣消防本部に繋がる地点もあることが判かりました。



↑登山道や携帯電話の電波の状況を確認

登山客が多いこの地域では、いつ事故が発生するかわかりません。有事の際に最善の活動ができるように今後も継続的に調査や訓練を実施していく予定です。

(長谷 法之)

## 個室よりも雑魚寝

(南分署)

南分署は昭和五十年に雲出本郷町に移転し、今年で四十一年の月日が経ちました。

津市消防でも、各消防庁舎が新築や改築して仮眠室が個室になりつつなる中で、南分署は、現在も畳敷きの和室で、職員が雑魚寝で仮眠をとっています。大量退職時代で職員が若返ってきた最近では、若い職員の中には雑魚寝を経験したことがない職員も増えてきてい

るようです。

ここで、雑魚寝の素晴らしさを取り上げたいと思います。

まず、先輩達と語り合えることです。経験豊富な諸先輩が現場での経験や失敗談、時には一番の過ごし方や趣味などを語ってもらえることは非常に有意義な時間です。

次に、災害対応の迅速さです。個室で仮眠している職員は不安で眠れないという声も聞きますが、仲間たちが傍にいます。安心感があり、災害指令に対して機敏に対応できます。

最後に、どのような環境でも対応できる精神力を養えることです。職員のいびきや歯ざしり、寝言が聞こえる中で仮眠をとることにより、どんな環境においてもストレスを跳ね除ける精神力を身に着けることができます。



若い職員には是非、仮眠室は個室といわず、雑魚寝を経験していただきたいと思えます。

(大野 学)

### 新津市誕生十周年記念 平成二十八年津市消防出初式

(消防団統括室)

一月十日、毎年恒例の津市消防出初式が開催されました。

合併以降、昨年まで津リージョンプラザ周辺で開催していましたが、観覧場所が狭い、観覧者が減少してきたなど、課題もあり、各方面団の代表消防団員や女性消防団員をメンバーとする検討委員会を立ち上げ、検討を重ねてきました。

その結果、今年場所は香良洲町の香良洲グラウンドで実施することとし、分列行進や一斉放水、木遣り披露に加え、昔、実際に消火活動で使用されていた腕用ポンプ二台を使用した古式消防演技を披露することになりました。また、大人だけでなく子どもにも楽しんでいただけるよう「消防ひろば」と題して電動ミニ消防車の乗車や車両展示など、新たな試みを計画しました。

新春を迎え、爽やかな快晴となった当日は、消防職員や消防団員、津市防火協会、自主防災組織関係者など、約六百五十人が参加しました。

会場には多くの市民が観覧に来ていただき、古式消防演技や各方面団の小型消防ポンプによる一斉放水では大きな歓声が上がっていました。

(柏 直樹)



↑香良洲グラウンドで開催

↓美杉分署が作製した古式消防演技の看板



### 古式消防演技の舞台看板作成

(美杉分署)

今年の出初式では、白山方面団・一志方面団による腕用ポンプを用いた古式消防演技が披露され、美杉分署では腕用ポンプが使用されていた昭和初期の雰囲気をもより引き出すために、縦二・七メートル、横九メートルの昭和の街並みを描いた舞台看板を作成しました。

作製期間二ヶ月と短期間でしたが、絵心のある職員を中心に業務の合間を見つけて作製し、出初式の前々日に完成しました。

出初式当日、腕用ポンプから勢いよく水が放たれ、観客からは拍手と歓声が上がっていました。

あまりの放水圧力に看板の塗装が剥がれないか冷や冷やしながらかも、看板・演技共に無事終了しました。

出番を終えた舞台看板は現在美杉分署に保管されており、ます。

(崎 隆敏)

### 美里方面団アザリア分団 みさと幼稚園訪問

(美里分署)

一月二十八日、美里方面団女性団員で構成するアザリア分団が、火事の怖さなどを知ってもらうため、美里町家所にあるみさと幼稚園を訪問しました。アザリア分団は、園児たちに、火事や煙の怖さなどを、紙芝居を使って伝えたり、園児達といっしょに、新聞紙で災害用簡易スリッパを作りました。割れたガラスに見立てた卵の殻の上を、作ったスリッパで歩いた園児は、簡単に作って使えるスリッパにびっくりしていました。



その後、園児たちは、ミニ防火衣を着て消防車の前で写真を撮ったり、煙体験ハウスで煙の怖さを体験しました。

(井土 浩之)

### 一志分署が新築移転

第二次津市消防力整備計画に基づき整備を進めていた白山消防署一志分署が三月二十四日に一志体育館の西に移転しました。

敷地は、消防操法訓練が行えるスペースを確保するとともに、駐車場を体育館と共有できるように整備しました。

庁舎は、女性職員の当直スペースや、消防団との連携を深めるため消防団作戦室を新たに設け、分署機能を強化しました。



### ○新一志分署

津市一志町高野160番地39

【一志体育館の西隣です】

電話:059-293-0279 FAX:059-293-1899

(電話・FAXに変更はありません)



### 技術の伝承

(久居消防署)

昨年の冬も寒い日が続きました。寒い日には温かい食事はありがたいものですよね。

そこで好評につき？消防の御飯シリーズ第二弾をお送りします。今回は牛飯(ぎゅうめし)です。

材料・牛小間肉三キログラム、ごぼう、生姜を醤油、酒、みりん、でコトコト煮て炊きたての御飯にまぜるだけ。

簡単ですし、生姜も入っているので体も温かくなります。

この時期も肌寒い日に、ためしてはいかがでしょうか。

そして、消防活動の技術だけでなく、こういった消防の食事でも先輩から後輩へ受け継がれていくんですね。(増田 裕彦)



### ☆ 主な行事予定 ☆

◆ 四月十五日

三重県消防職員意見発表会 (名張市)

◆ 五月二十六日・二十七日

伊勢志摩サミット (志摩市)

◆ 七月十六日

三重県消防操法大会 (鈴鹿市・三重県消防学校)

### 編集後記

一志分署の庁舎が新しくなりました。

新庁舎への引越しが完了し、荷物もなくなった旧庁舎を見ると、とてもガランとして、意外と広かったんだなど、学生時代にアパートを引き払った時と同じような思いが甦りました。

新築から四十年を超える時の流れの中、庁舎の改装や通信機器の更新、市町村合併による消防本部の統合を見つめてきた旧庁舎は、平成二十八年三月をもってその役目を終えましたが、取り壊されることなく、別の形で新たなスタートを切ることにしようです。

これからは、第二の庁舎人生をゆっくりと刻みながら、坂の上に着いた新米庁舎の活躍を、優しく見守っていただけることでしょう。(宮田)

**平成二十七年の  
火災・救急・救助概況**

【火災】平成二十七年中に市内で発生した火災は百十七件で、そのうち住宅火災は三十一件でした。また、火災による死者は三人で、住宅火災によるものでした。前年と比較すると火災件数は五件減少し、その内建物火災は五件増加、林野火災は十件減少となりました。

火災原因については、全体では「たき火」が最も多く、住宅火災では、「こんろ」「ストーブ」による火災が多く発生しました。

大切な命と財産を守るためにも  
住宅用火災警報器を設置しましょう。

区分	平成27年	平成26年	増減
火災件数合計	117	122	▲5
建物火災	60	55	5
うち住宅火災	31	24	7
林野火災	5	15	▲10
車両火災	16	10	6
船舶火災	0	0	0
その他の火災	36	42	▲6
死者(人)	3	3	0
うち住宅火災	3	2	1
負傷者(人)	11	16	▲5

▲は減を示す

区分	平成27年	平成26年	増減	
出動件数	14,306	14,229	77	
搬送件数	12,969	12,862	107	
搬送人員(人)	13,128	13,041	87	
主な事故種別 (出動件数)	急病	8,978	8,867	111
	一般負傷	2,317	2,211	106
	交通事故	1,289	1,355	▲66

▲は減を示す

【救急】平成二十七年中の市内における救急出動件数は一万四千三百六十七件で、前年に比べ七十七件の増加となり市町村合併後最多の出動件数となりました。

事故種別でみると、例年同様急病が八千九百七十八件と最も多く、次いで一般負傷の二千三百十七件、交通事故の千二百八十九件の順となっています。また、傷病程度では、全体の約半数が軽症者となっており、この中にはタクシー代わりとみられる救急事案もありました。

救急車の適正利用に  
御協力をお願いします。

区分	平成27年	平成26年	増減	
出動件数	105	126	▲21	
活動件数	57	85	▲28	
救助人員(人)	61	129	▲68	
主な事故種別 (出動件数)	交通事故	66	63	3
	火災	1	4	▲3
	水難事故	9	12	▲3
	建物等による事故	13	9	4

▲は減を示す

【救助】平成二十七年中の市内における救助出動件数は百五件で、前年に比べ二十一件の減少となりました。

事故種別の出動件数で最も多いのが交通事故による救助出動で、六十件あり、全体の約六十三パーセントを占めました。

前年と比べると救助出動件数は二十一件の減少となりましたが、交通事故による救助出動は三件増加しました。

区分	平成27年	平成26年	増減
119番受報	22,035	23,012	▲977
火災	117	122	▲5
救急	14,306	14,229	77
救助	105	126	▲21
警戒・調査	249	300	▲51
病院案内 問合せ いたずら等	7,258	8,235	▲977

▲は減を示す

【一一九番通報】平成二十七年中に約一千九百五十五件で、一日当たり約六十件の一一九番通報を受けたこととなります。

内訳を見ると、救急通報が一万四千三百六十七件と最も多くなっていますが、次いで、病院案内等によるものが七千二百五十八件となっています。

年々増加する救急搬送の約半数が軽症者の搬送となっており、本当に救急車が必要な重篤な傷病者への対応が後手に回ることが少なくありません。

軽症の場合は、医療情報案内  
☎二五六一―九九九  
にお問い合わせください。